



60年の歩みを力に、無限の可能性広がる未来へ。

th
anniversary

Think of Next 100

CSR 報告書 Vol.13 2025



まちと未来をキレイにする仕事。

Chutoku Group

A street scene at dusk with utility poles and a Chutoku Group truck. The sky is a mix of purple and orange. In the foreground, a person in a blue shirt is blurred. A white truck with green accents and the Chutoku Group logo is visible on the right. The text "to the next century" is overlaid on the left side.

to the next century

100年先で 会いましょう。

2025年2月1日、中特グループは創業60周年を迎えました。

しかし、私たちはこれを「通過点」と捉えています。

目指すのは100年先、そのもっと先でも地域のお役に立てる存在。

これからもまちと未来をキレイにする仕事を続けていきます。



これまでも、これからも。 未来に向けて進化は続く。

1979



Chutoku Group
2025年度事業発展計画発表会

2025



新年グループ総会



1998



2022



2019

中特グループスローガン

まちと未来を
キレイにする仕事。

グループ各社スローガン

〈中国特殊株式会社〉〈株式会社藤井興業〉
水まわりで、地域まわり。

〈株式会社吉本興業〉
スマイルアップ、クリーンアップ。

〈株式会社リライフ〉
捨てられたモノに、いのちを。

〈株式会社ポータルハートサービス〉
思い出も整理する。

企業理念

使命

私たちは生活環境革命で
人々を幸せにします

基本姿勢

1. 私たちは、私たちを取り巻く
全ての人々に誠実に接します
2. 私たちは、時代の風向きに敏感に反応し、
いかなる時代が来ようとも存続します
3. 私たちは、共に地球に暮らす一員として、
社会のために役立つ存在となります

行動指針

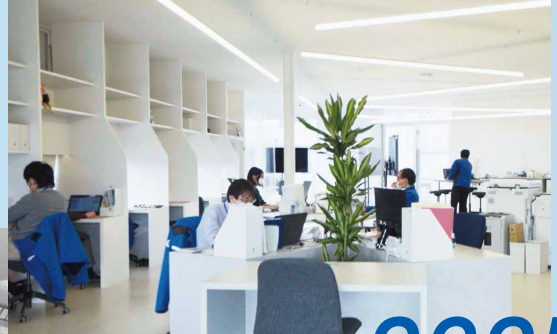
1. 明るく元気に
2. 迅速丁寧
3. 目配り気配り思いやり
4. ピンチはチャンスのプラス思考

目指す ポジション No.1

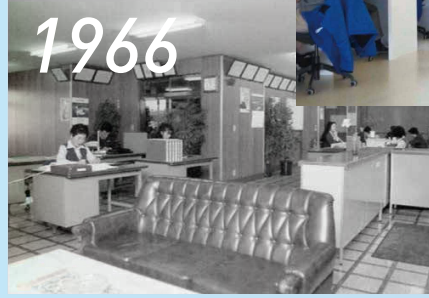
- 社員の幸せ No.1
- お客様の満足 No.1
- 社会に貢献 No.1
- 未来の創造 No.1



2025



2025



1966



2010



2011

2025



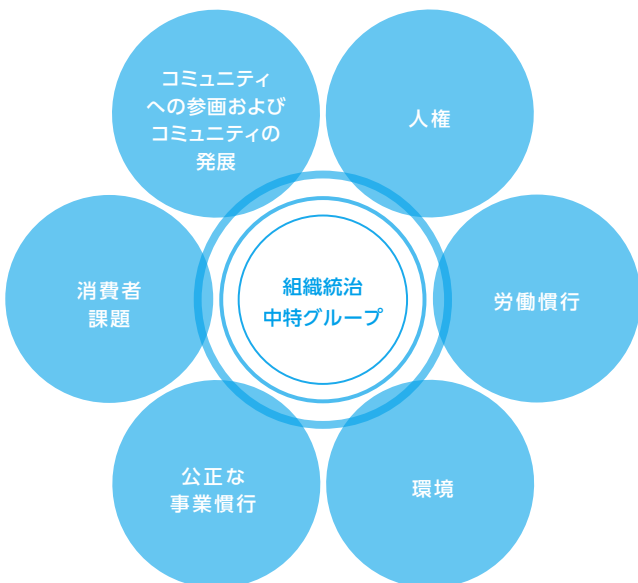
2025



1999



ISO26000 7つの中核課題



橋本さんと語る「ライフ・イン・ワーク」座談会	05
TOPICS2025「中特グループ創業60周年感謝祭」	11
TOPICS2025「ACTA+企業コラボレーション」 「福利厚生充実度アップ」「現場アップデート」	13
数字で見る中特グループ	15
環境のために 環境	19
地域社会とともに	
コミュニティへの参画およびコミュニティの発展	21
お客様とともに 消費者課題・公正な事業慣行	23
社員とともに 労働慣行・人権	25
事故災害ゼロをめざして 労働慣行・人権	29
第三者意見	33
公正な事業と組織運営のために 組織統治・公正な事業慣行	34

編集方針

中特グループのCSR/CSVの取り組み、事業、その他の活動をステークホルダーの皆様へご報告する様に編集しています。ホームページ等でも開示していますのであわせてご覧ください。作成にあたっては環境報告ガイドライン、ISO26000、及び国連持続可能な開発目標(SDGs)を参考にしました。対象期間:2024年10月~2025年9月(一部対象期間外)

橋本さんと語る「ライフ・イン」

～Think of Next 100 スペシャルトーク～

はじめに

橋本：今回は、「将来を自分ごととして想像できる人」をテーマに、35歳以下の若手の皆さんにお集まりいただきました。サステナビリティやSDGsの考え方が社会に浸透する中で、私たち廃棄物処理業を営む企業は、発展を目指す以前に“今の仕事を持続させること”自体が容易ではないと感じています。そうした状況の中で、今期のスローガンを「選択と集中」と掲げました。今日は、若手の皆さんの考えを伺いながら、未来を見据えて私たちが何をを選び、どこに力を注ぐべきか、そのヒントを得る機会にしたいと思います。どうぞ率直なご意見を聞かせください。

林：対談前に全若手社員にアンケートを取りました。橋本さんには結果を予想していただきながらお話を進めていきます。



01. 脳内を占める「仕事」は何パーセント？

林：まず、「仕事のことを普段脳内でどれくらい考えているか」割合をたずねました。橋本さんの予想はいかがですか？

橋本：30%くらいはあるんじゃないでしょうか！

林：それでは実際の結果を見てみましょう。こちらです！



橋本：わあー！皆さん、ありがとうございます。あくまで平均値なので、これより高い人もいれば低い人もいます。ただ、「今どきの若い人は～」というようなニュースや世間の情報に影響されて、実際よりも低く予想してしまったのかもしれない。

濱津：僕は30%くらいかなと思っていました。子どもがいる方は育児のことを考えたりするんじゃないでしょうか。



バム：私は仕事に関わらないプライベート

野球観戦にハマって
カープファンに
7月は3回観戦へ

海外の屋台の
YouTube動画をよく見る

釣りが好き。収録前日は
フリが24匹釣れた

海や川に今年も3～4回行って
クラゲに刺された

若手たちが最近
ハマっていることを聞いて
早くもギャップを感じている



中特HD 未来創造部
タムカンマー スピッチャー
(通称:バム)



中国特殊 eグリーン
伊東 明紀



中国特殊 eグリーン
濱津 来偉



中特HD 営業企画推進部
高尾 璃七



中特グループ CEO
橋本 ふくみ

橋本：上司に対して「話しやすい」とか「ちょっと話しにくい」と感じることで、きっと誰にでもありますよね。でも実は、その逆もあって、上司のほうも部下に対して「この人は話しかけやすい」「少し距離を感じるな」と思うことがあるんです。人間関係って、正解があるものではありません。だからこそ、お互いが気持ちよく働けるようにするためには、相手の出方を待つのではなく、自分から歩み寄る姿勢が大切だと思います。

Q3. 中特の魅力だと感じる場所は？

林：若手が中特グループの魅力だと思うところはどこでしょうか？

橋本：1位は「人間関係がいい」、2位は「風土や雰囲気がいい」、3位は「休みがとりやすい」という予想にしました。

林：結果はこちら！Q.2の「仕事で重視すること」と合致していますね。

社員研修旅行が楽しみ

コミュニケーションは大事！

!!

?

人間関係をさらに良くするには？

中特の魅力だと感じる場所はどこですか？	
1位 人間関係がいい	1位 人間関係がいい
2位 風土や雰囲気がいい	2位 残業が少ない
3位 休みがとりやすい	3位 休みがとりやすい 風土や雰囲気がいい
橋本CEOの予想	アンケート結果

バム：部下や同僚とのいい関係性は仕事の効率化にも繋がっているのではないかと思います。気が合うとさまざまなことがスムーズに進むし働きやすいと感じます。

橋本：「残業が少ない」「休みがとりやすい」といった声があったのは、これまで会社としてそういう職場環境をつくろうと努力してきた結果だと思います。魅力だともらえているのは本当にうれしいですね。

もし「休みが取りづらい」と感じている部署があるとすれば、その原因をしっかりと調べて、改善していく必要があります。誰もが安心して働ける環境にしていくことが大切だと思います。

林：一方で、資格取得支援制度を一番の魅力と挙げた方はいらっしゃいませんでした。

橋本：もう少し支援制度が充実してほしいと思いますか？

高尾：業務に必須ではない資格取得に対する支援が増えたらいいと思います。

村田：業務の必須資格は会社が全額負担で、それ以外は一部負担ですね。



バム：IT企業では、スキルアップのために、業務に直接関係ない資格でも補助が出る制度があると聞いたことがあります。

高尾：資格取得に関する全額負担が増えればいいと思います。



橋本：今期は「スキルマップの活用」を重点施策としています。社員一人ひとりが自分の得意分野やこれから伸ばしたいスキルを整理し、成長の方向性を共有できるようにしたいと考えています。もし、会社が求めているスキルと、皆さんが「現場や実務ではこれが必要」と感じているスキルとの間にギャップがあるようなら、ぜひ教えてください。そうした声をもとに、仕組みそのものをより実情に合ったものへと改善していきたいと思っています。

林：他には「社員研修旅行を実施しているところ」「ダチョウを飼育しているところ」「転勤がない」などの魅力が挙がりました。

村田：社員研修旅行があるのは嬉しいですね。

橋本：昭和の時代は、多くの会社で社員研修旅行があったんですよ。でも、





平成に入ってから参加する人がだんだん減ってきて、やめる会社が増えました。

中特グループでも、一時は参加者がほとんどいなくなって、しばらく中止していた時期がありました。それが、ここ数年で「また行きたい」という声が増えてきて、再開することになったんです。実際に皆さんが楽しそうに参加してくれている姿を見ると、「やっぱり再開してよかったな」と心から思います。

社員研修旅行って、仕事の延長ではあるけれど、寝食を共にすることでお互いを知るいい機会にもなるんですよね。そういう時間を大切にしながら、これからも“人のつながり”を感じられる職場にしていきたいと思っています。

高木：ぜひ続けてほしいと思います！

林：ところで、一番の魅力である人間関係にもっと力を入れるためのアイデアがある方はいらっしゃいますか？

高尾：運動会を開催してみたいです！運動神経に関係なく、誰でも楽しめる

内容にできたらいいなと思います。例えば応援合戦とか。やっぱりスポーツって、自然とみんなが仲良くなれる気がします。

藤本：以前、リライフで土曜出勤日にカレーをふるまっていたとき、普段あまりお話しする機会のなかった部長とお話しできて、すごく打ち解けられたんです。そういう交流の場があると、職場の雰囲気もさらに明るくなって、いいなと感じました。

バム：私はタイ出身なので、次は私がタイ料理のグリーンカレーを作ります！

伊東：自部署のことはよく知っているのですが他部署のことはあまり知らないのですが、もっと交流の場があるといいなと思います。

橋本：社員研修旅行は、普段あまり接点のない他部署の人たちと交流できる貴重な機会だと思っています。そのため、部署を横断したグループ編成にして、できるだけ多くの人が新しいつながりを持てるようにしています。

広報も頑張ってくれていて、LINE WORKSを活用しながら新入社員の紹介などを積極的に発信してくれていますよね。運動会も、みんなで楽しみながら交流を深められるいい機会になりそうですね。

橋本：同好会が以前はいろいろあったと思いますが今はないのでしょうか？

バム：今は新入社員が筆頭となって、社内でハイキング部ができているみたいですよ。やりたいことがあっても、誰に伝えればよいのか分からず広まっていけないんだと思います。



橋本：そういう窓口があるといいですよ。人間関係を円滑にするためにやりたいアイデアを提案していただけたらぜひ考えます。

04. 「人生」で重視していることは？ ※1人につき2つ選択

林：人生で重視していることを若手の皆さんに伺いました。橋本さんには順位を決めずにこれは入っているだろうという3つを選んでいただきました。

橋本：選択肢を3つに絞るのは本当に難しかったです。その中で私は「仕事」「趣味」「お金」を選びました。特にお金については、年金やNISAなどへの関心が高まっている一方で、日本の将来に対する不安も感じている人が多いのではないかと思います。



林：結果がこちらです。
趣味と家族という回答がそれぞれ58%でした。住む場所や地位・名誉、美容・ボディメイクを選んだ方もいらっしゃいました。

「人生」で重視していることは何ですか？	
仕事	1位 趣味/家族
趣味	2位 お金
お金	3位 健康

橋本CEOの予想 アンケート結果

橋本：かつては「結婚が一番の幸せ」という価値観が強く根づいていました。それに比べると、今は結婚しない、あるいは子どもを持たないという選択をする人が増えてきたように感じます。現在の「家族」という言葉には、結婚して築く家庭だけでなく、親や兄弟、身近な人たちなど、より広い意味で“自分を支えてくれる存在”が含まれているのではないのでしょうか。

高木：そうですね。僕は姉に子どもが生まれて意識が変わりました。今まで気にも留めなかった子ども用の服なども気にして見るようになったので、家族を選択しました。



林：脳内の50%を仕事が占めているという回答でしたが、仕事が入っていないのは不思議ですね。

バム：個人的な意見ですが、仕事＝生活するためのツールという感覚なので、脳内にはもちろんありますがランクインはしませんね。

村川：仕事はお金のためというのはそ

の通りだと思います。仕事以外にもお金を稼ぐ手段はありますので、お金がランクインするなら仕事は入らないと思います。



橋本：働く時間を増やさずに収入を上げるには、どうしたらいいでしょうか。これからの時代は、時間ではなく成果が大事だと思います。会社としても、この度の新人事制度の策定によって、成果を上げた分報酬に反映される仕組みにしました。だからこそ、自分の強みを活かして仕事に付加価値を生み出すことが、結果的に収入アップに繋がるのではないのでしょうか。

高尾：成果の基準が明確で、評価にどう影響するかが分かることが重要だと思います。

バム：成果が具体的に見えにくい部署もありますよね。例えば広報や総務などの間接部門は何をやっているのか分かりやすくなればいいですね。

橋本：全員が同じ仕事をしていれば評価もしやすいのですが、実際はそれぞれ役割が違うので、どうすれば誰もが納得できる評価ができるのか、私も日々悩んでいます。例えば営業部が案件を獲得して売上を上げたというのは分かりやすいですが、その裏でサポートした人の頑張りは見えにくい部分がありますよね。売上だけを評価の軸にしてしまうと、自分の成果ばかりを追いかける風土になってしまう危険もあります。そういう会社にはしたくありません。

とはいえ、物価も上がっていますから、

社員の賃金は少しずつでも上げていかなければなりません。そのバランスをどう取っていくかが重要です。

Q5. 人生が変わった瞬間やきっかけは？ ※自由回答

林：人生が変わった瞬間やきっかけはこういった回答がありました。



高尾：尊敬できる先輩に出会ったというのはすごく素敵ですね。

藤本：これ、僕が書きました。19歳の時に出会った優しい先輩に「自分の後輩や部下が失敗した時にどうされていますか？」と聞いたところ、「全部とりあえず自分のせいにしていく」と答えられてとても驚きました。自分はそういう考え方ができなかったの、見習わなければいけないと思いました。ずっと心に残っていますね。





村川：大学進学と答えました。義務教育ではないので進学するかどうかは自由じゃないですか。大学に行くと決意したからには「心がけを変えてしっかり勉強する」と思ったきっかけだからです。

林：人との出会いや身を置く場所の



変化が多くの若手に影響しているようですね。

橋本：難しい問いですよね。私は40歳を過ぎてから人生が変わる瞬間があったので、この中でそういった瞬間がないと回答した人も、10年や20年経って同じ質問をすればまた違った答えになるかもしれませんね。

06. 将来不安に思っていることは？ ※1人につき2つ選択

林：将来不安に思っていることは何ですか？という質問です。

橋本：私は1位に「地震・災害」、2位に「物価高」、3位に「外国との関係」を選びました。災害はいつでも起こるかわからず、誰にでも影響を及ぼす可能性があるため、特に関心が高いと感じています。また、最近は円安や物価の上昇など、日本のお金の価値が下がっている実感する場面が増えました。さらに、世界各地での紛争や国際的な緊張のニュースも多く、情報をすぐに得られる世代だからこそ、身近な不安として感じている人が多いのではないかと思います、このように選びました。

林：結果がこちらです。1位の年金・税金は全体の45%を占めました。

将来で不安に思っていることは何ですか？	
1位 地震・災害	1位 年金・税金
2位 物価高	2位 外国との関係
3位 外国との関係	3位 地震・災害
橋本CEOの予想	アンケート結果

橋本：なるほど。年金は毎月支払っていますが、将来どのくらい受け取れるのかが分からないため、不安を感じる人は多いと思います。

少子高齢化が進み、生産年齢人口（16歳から64歳）が減少している中で、すべての人の社会保障を均等に維持しようとすると、財源が不足してしまうのも現実です。一方、北欧諸国のように少子高齢化がさらに進んでいる国では、給料の約半分が年金や税金として引かれますが、その分給与水準が高く、医療や教育が無償で提供されています。

「いざというときは国が支えてくれる」という安心感が社会に根づいているのです。日本も今後、こうした仕組みに近づいていくのではないかと感じています。

林：中特グループでこの心配な点に対して何かできないのでしょうか？

村田：会社でできるとしたら年金や税金、地震・災害などについて学ぶ機会

を設け、勉強会を開催することですね。

07. あなたが社長になったら？ ※自由回答

林：最後に、あなたが社長になったとしたらどんなことをしますか？という質問の回答を見てみましょう。

もしあなたが社長になったらどんなことをしますか？

- 浄化槽管理、ゴミ回収の状況管理ができるアプリ・システム開発
- 地元の方が駆け込みやすい、今よりもっと気軽に入れるような物理的な「なんでも受付窓口」を作る。
- Dream Houseの新しい需要の検討
- エステサロンオープン、商品開発
 - 中特グループの「多様な人材」という強みを生かして、個人向けの中特グループの美容・健康分野を開拓する。
 - 美容・健康分野の市場規模は約1兆円。中特グループの強みを生かして、美容・健康分野を開拓する。
 - 美容・健康分野の開拓は、美容・健康分野の開拓に貢献する。
 - 美容・健康分野の開拓は、美容・健康分野の開拓に貢献する。

もしあなたが社長になったらどんなことをしますか？

- 農業
- 介護・保育
- 地域インフラ維持×サブスク事業
- 月額1000円程度、年1回の換気装置洗浄＋不用品の回収
- 大学との共同開発
- 駐車場運営
- 太陽光パネルの処理
- バイオマス灰の有効活用
- 託児所設立（社員優先）
- 65歳以上でも可能な作業を選出しての福利厚生（バーンセンター設立）

林：前期のスローガンである「当事者意識」を若手の皆さんにも持ってほしいという意図で設けた設問でしたが、結果として、新たな事業への挑戦から、子どもや高齢者を対象とした取り組み、さらにはアプリ開発など、現在の事業をより良くするための多様な意見が寄せられました。

最後に

皆さん、本日はご参加いただきありがとうございます。今回いただいたご意見は、今後の経営にしっかりと活かしていきたいと思っています。

皆さんは、これから40年近く働いていく世代です。どうせ働くなら、「しんどい」と感じながら続けるよりも、仕事の時間を少しでも有意義なものにしていくことが大切です。

これからも中特グループのさらなる改善や、自分自身の成長につながるようなアイデアがあれば、ぜひ積極的に提案してもらえればと思います。



TOPICS 2025

中特グループ 創業60周年感謝祭

2025年5月25日(日)、
(株)中特ホールディングス本社COILにおいて
中特グループ創業60周年感謝祭を行いました。
中特グループは1965年に創業し、
2025年2月に60周年を迎えました。
この度は地域の皆様やお客様への感謝の気持ちを込めて
地域密着型のイベントを行いました。
当日は地域の小中学校、お客様や地域住民の皆様など
約800名の方にお集まりいただき、盛会に終わりました。



オープニングでは地元・太華中学校吹奏楽部による演奏が行われました。シュガーソングとビターステップ、群青、最高到達点、アンコールでケセラセラを演奏し、真剣な表情とハーモニーで観客の心をつかみました。(a)

次に中特グループ社員でもある「大道芸人あきひろ」によるパフォーマンスが行われました。多数のリングを操るジャグリングや水晶のパフォーマンス、バランス芸で場を盛り上げました。

昼休みには社員の率いる特別ユニット「FireDudes」が伝統的な舞踊ハカ

と炎を操るファイアーダンスを披露し、歓声を浴びました。

午後の最初のステージでは周南市銀南街にスタジオを構えるダンスチーム「THE DOPE」によるHIPHOPダンスが披露されました。ドープなサウンドと魅力あふれるパフォーマンスに観客が引き込まれていました。

14時からはお笑い芸人ゴー☆ジャスさんによるスペシャルステージ、大声大会を行いました。ゴー☆ジャスさんは地球儀を片手に、「ここ！マダガスカル！」でお馴染みのショートコントネタを次々披

露。この日のために周南市ネタも用意いただき、ひと際大きな拍手が起きました。観客席にも下りてやりとりするなど、軽快なトークで盛り上げていただきました。(b) 大声大会ではゴー☆ジャスさん司会のもと、マイクに向かって参加者10名が大声で叫び点数を競いました。内容は食べ物や好きな人の名前、ゴー☆ジャスさんのネタでよく登場する国名などさまざまでした。優勝したのは最高点の174点を出した小学生の参加者で、サイン入りの地球儀を手に記念撮影しました。(c) 最後に餅まきを行い、約1,000組の紅白餅



このまちで共に暮らす

皆様に、ありがとうございます！



とお菓子がまかれました。(d)
他にも会場では4台のキッチンカーにより唐揚げやジェラート、ドーナツ、ハンバーガーなどが提供されて賑わいました。また、飛び跳ねて遊べるふわふわドームやお菓子のつかみ取りコーナー、バルーンアートが子どもたちに人気でした。60周年を記念したクイズラリーでは回答した参加者にノベルティをプレゼントしました。
中国特殊(株)の敷地内では、はたらく車展示会も開催。来場者はパッカー車の試乗などの体験を楽しみました。

来場者アンケートでは「初めて来たけど楽しかった」「とても面白かったです」「ご飯よし、ステージイベント良し、はたらく車展示イベントもよかったです。特にはたらく車の説明はしっかり教えていただき試乗もできて、妻も自分も楽しかったです。また行きたいです！」といった嬉しいお声をたくさん頂きました。
ご来場くださった地域の皆様をはじめ、出演・出店・運営にご協力いただいた関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

皆さまのお力添えにより、創立60周年という節目の年を笑顔と感謝に包まれて迎えることができました。ありがとうございます。
これからも中特グループは、地域の皆様とともに歩み、未来へとつなぐ企業であり続けます。



ACTA+ 企業コラボレーション

私たちが創造する
廃棄物アートの
取り組みへの
理解と共感が
どんどん
広がっています。



廃棄物アート事業を行う株式会社ACTA PLUSはJ-Startup WESTに選定され、11月20日に授与式に出席しました。12月には三井不動産株式会社に協賛いただき、東京都日本橋の三井タワーで4回目となる廃棄物アート公募展を開催しました。2月にはマツダ株式会社にご依頼いただき、同社のブランド体感施設「MAZDA TRANS AOYAMA」にて作品10点の企画展とワークショップを行いました。さらに10月に大阪高島屋、4月に玉川高島屋にてポップアップイベントを開催したほか、7月に無印良品にて企画展とワークショップを行うなど活動の幅を広げています。



安心、快適に働ける
環境づくりを進めます。



福利厚生 の充実度アップ

社員が安心して健康的に働けるよう、福利厚生の継続的な見直しと新たな施策の導入を進めています。

2025年6月15日以降、現場で働く社員の健康を守るための熱中症対策として、各事務所に冷たいおしぼりや氷菓子の設置を開始しました。また、毎年6月頃には自由に利用できるスポーツドリンクや水などのペットボトルコーナーを設置し、暑い時期を快適に過ごせるよう環境を整えています。

さらに、社員の生活支援として、2025年3月28日より食事補助制度「チケットレストラン」(※1)を導入しました。今後も社員がより安心して働ける環境づくりを推進しています。

※1 チケットレストランとは…
会社と従業員でお金を半分ずつ出し合い、食事に使えるプリペイドカードにチャージ。会社の半額負担により、従業員が飲食物を実質半額で購入できる食事補助サービスです。



現場アップデート



HOSグループ



eグリーングループ

ICT導入と
研修環境整備による
人材育成強化

中国特殊(株)・(株)藤井興業

水回りの維持管理を行う中国特殊(株)では、グループ全体での業務効率化と人材育成に向けた取り組みを推進しています。浄化槽維持管理を担うHOSグループでは、デジタル入力「Mr.AQUAシステム」を導入。タブレット端末上で点検データの記録・共有・閲覧が可能となり、過去データの参照や業務報告が迅速化しました。同業種の(株)藤井興業でも本システムの導入を予定しております。また、下水道維持管理を担うeグリーングループでは、新たに下水道管理研修施設を開設。これまで現場での見習い中心だった教育体制から、より体系的で安全性の高い人材育成プログラムへと進化しました。学生研修においても、同施設でのデモンストレーションを活用することで、地域社会への理解促進と次世代人材の育成にも貢献しています。

土木・解体工事を担うSBグループでは施工前の手順書や説明資料として3Dパースを導入しています。立体的に現場を再現し工法や安全対策を伝えることで安心をお届けしています。



SBグループ



全車両への自重計搭載で
安全性と効率性を強化



(株)吉本興業

廃棄物の収集運搬を行う(株)吉本興業ではパッカー車全車両に自重計を搭載し、過積載防止対策の強化とともに、安全運転と運行管理の精度向上を図っています。

さらに、積載データを活用して排出量を可視化することで、廃棄物削減やリサイクル推進につながるご提案が可能となり、お客様へのサービス向上にも貢献しています。

今後も、安全・環境・効率のすべてを両立させた持続可能な運行体制を目指してまいります。

(株)ポータルハートサービス

遺品整理や空き家問題など、地域が抱える社会課題の解決に取り組んでいる(株)ポータルハートサービスでは、「もったいない精神」を原点に、再販が難しく従来は廃棄せざるを得なかった品を有効活用するリユース活動を推進しています。まだ使用可能な衣類や食器などを選別し、必要とする方々へ寄付を継続することで、資源の循環利用を促進するとともに、地域社会への貢献と環境負荷の低減にもつなげていきます。



リユース活動を
通じた資源循環と
社会貢献

処理工程の自動化による
業務効率化と安全性向上

(株)リライフ

産業廃棄物処理事業を行う(株)リライフでは、脱塩・分離・改質施設において、ピットで受け入れた塩素含有廃棄物の水洗・静定・分離・排水処理ピットへの移送までの工程を自動化しました。従来は作業員が目視で確認し、人力で行っていた一連の作業を機械制御により自動化することで、作業負担の軽減と処理工程の安定化を実現。これにより、業務効率の向上とともに、安全性・品質の両面でより持続可能な処理体制を構築しました。



数字で見る中特グループ

2024中特グループの10の取組み【経営&ISO統合目標】

中特グループが地域社会に強く必要とされるために、次世代のために、環境のこと、社会のこと、子どもたちのことを考えて何をすべきか、あるべき姿に向かって取り組んでいます。

2024年度は10の課題を掲げて活動を行いました。

01

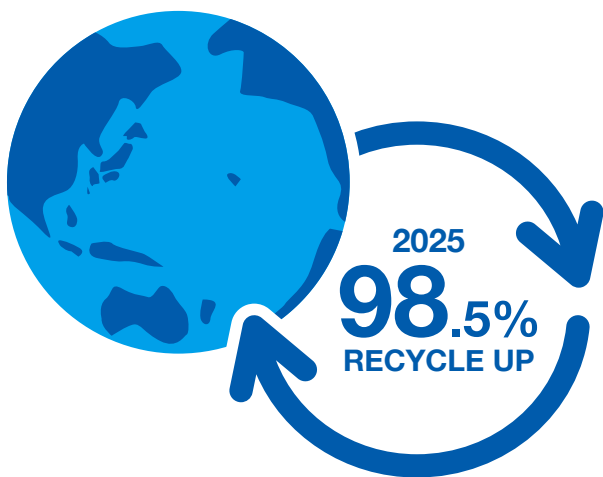


事故・災害の撲滅

事故・災害については、「安全はすべてに優先する」という基本理念のもと、常に“ゼロ”を目指して取り組んでいます。

2024年度は、幸いにも大きな事故・災害の発生はありませんでしたが、軽微な事故が5件発生しました。そのうち3件は、解体作業や重機作業といった危険度の高い業務で発生しており、わずかな判断の誤りが重大な事故につながるおそれがある事例でした。

これらを踏まえ、今後はヒヤリハットへの感受性を一層高め、JBK(事故撲滅研修)やリスクアセスメント活動、KY活動などを継続的に実施します。「ヒヤリハットのうちに芽を摘む」という意識を全社員で共有し、事故・災害“ゼロ”の実現を目指してまいります。



02



環境への貢献

地球環境の維持・改善にわずかでも貢献するため、産業廃棄物の再資源化率向上、CO₂排出量削減に向けて取り組んでいます。

再資源化率向上については、2025年度は98.5%となり、直近5年間での最高値を僅かながら更新しました。

CO₂排出量削減については、793t-CO₂となり、前年比1.7%増となりました。これは売上増に伴う燃料使用量の増加が影響しています。

今後、更なる向上を目指してまいります。

03



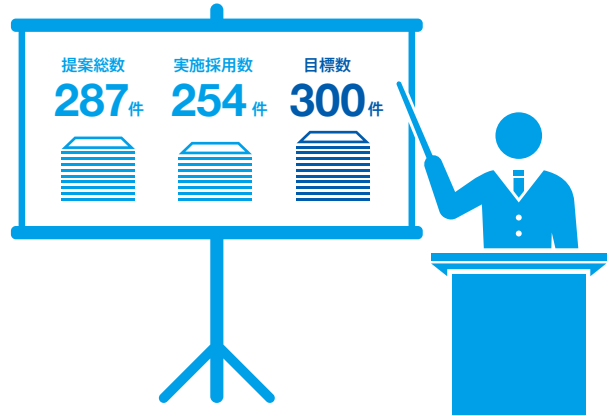
中特チームカイゼン活動

安全衛生の向上、業務の効率化、コスト削減、省資源・省エネ・環境美化、そして社員の改善意識向上を目的として、改善提案制度を導入し、継続的に活動を行っています。

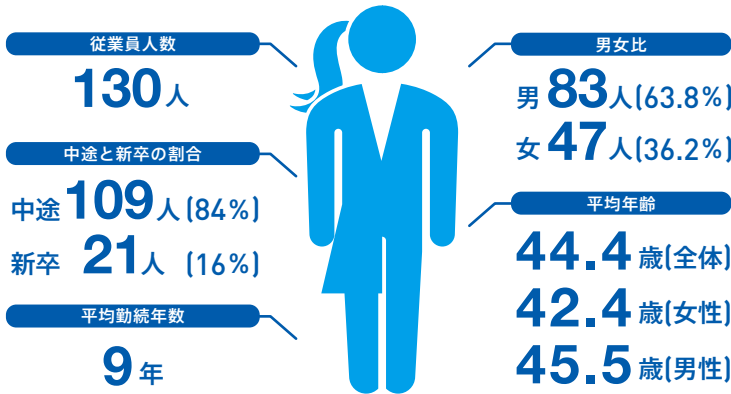
2024年度の提案件数は287件、実施採用件数は254件となり、目標の300件には届かなかったものの、前年度比で約30%増加しました。

提案内容も年々充実しており、ヒヤリハットへの対応策や品質トラブル解決に関する提案が増えるなど、提案の質の向上も見られます。

2025年度も引き続き、社員一人ひとりの改善意識を高めるため、制度の改訂を行い、PDCAサイクルを着実に回しながら、質・量ともに充実した改善活動を推進してまいります。



04



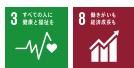
従業員数、男女比、平均年齢

育児世代の女性が、自分らしい働き方を実現できるよう、短時間正社員制度や希望時間帯で働けるパートタイム制を導入しています。

また、若手人材の採用にも力を入れており、高卒・大卒の新卒者に加え、若年層の中途入社も積極的に受け入れています。

※2025年8月1日現在
※役員、正社員、嘱託社員、パート社員（派遣と契約社員を除く）

05



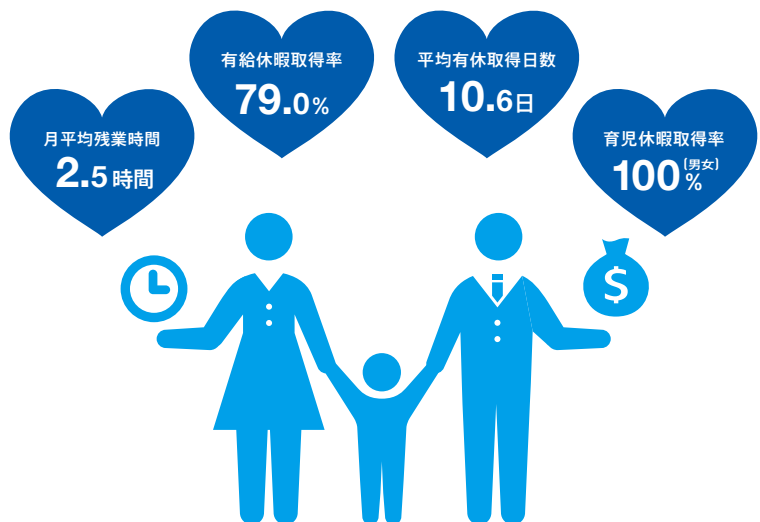
働き方改革、労働生産性向上

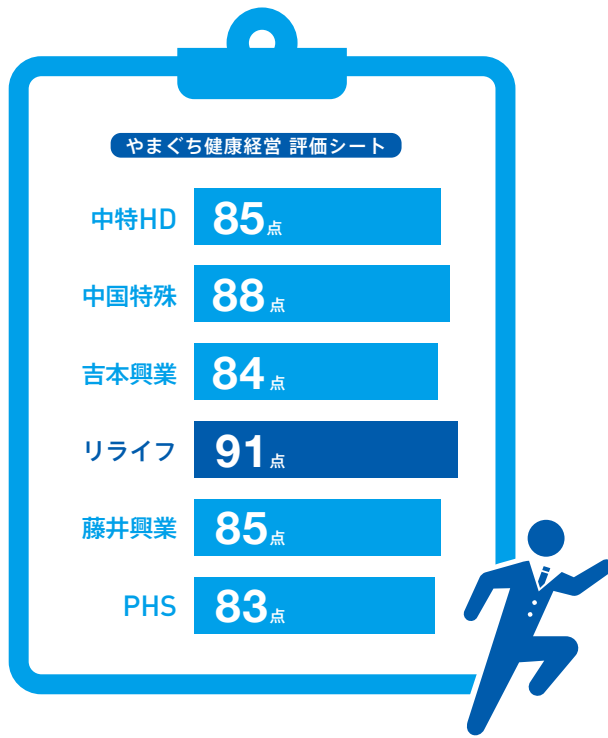
「働き方改革推進に関する方針」を掲げ、社員一人ひとりのワークライフバランスの向上と、健康で充実した生活の実現を支援しています。

長時間労働を前提としない職場づくりに取り組み、育児休暇取得率は昨年に引き続き100%を達成。育児と仕事の両立を積極的に後押ししています。

また、勤怠管理システムを活用した労働時間の正確な把握に加え、業務のデジタル化と標準化を推進し、効率化と生産性の向上に取り組んでいます。

※2024年8月～2025年7月





06



健康増進活動推進

社員の健康保持と増進を目的として、年1回の定期健康診断およびストレスチェックを実施し、検査結果に応じて必要な方には受診を勧奨しています。

また、毎月の産業医による職場巡回や安全衛生委員会を通じて、職場環境の改善や健康管理に関する助言を行っています。

禁煙を目指す社員には、達成に向けた費用支援制度を設けるほか、総務管理部では毎月、健康に関する情報を発信し、社員一人ひとりの健康意識向上に努めています。

07



社員幸福度

近年、企業経営においては「社員の心身の健康」や「生活の幸福度」といった観点から、ウェルビーイングの概念がますます重要視されています。

ウェルビーイングの視点から会社の現状や課題を把握し、働きがいのある職場づくりや福利厚生・制度設計に活かすことを目的に、昨年に続き本年もグループ全社員を対象としたウェルビーイングアンケートを実施しました。

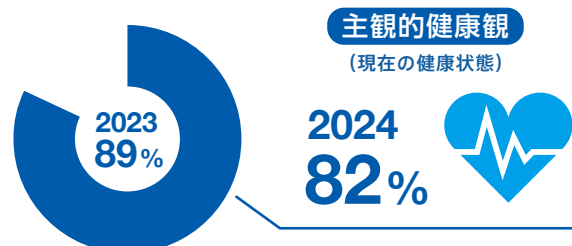
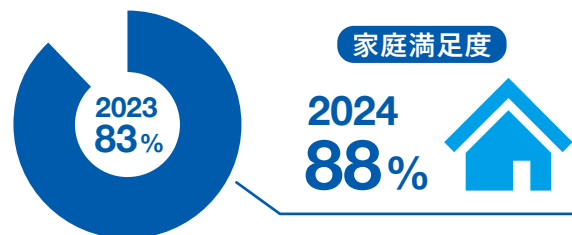
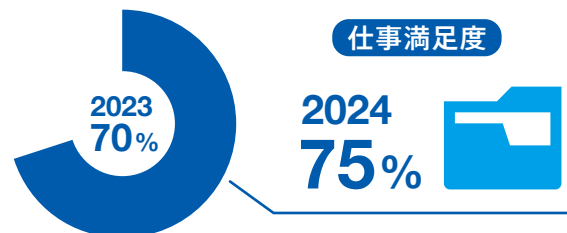
仕事満足度および家庭満足度については、「満足・まあ満足」と回答した社員の割合が向上しました。一方で、主観的健康観に関しては「良い・まあ良い」と回答した割合が減少する結果となり、改善の余地があることが明らかになりました。

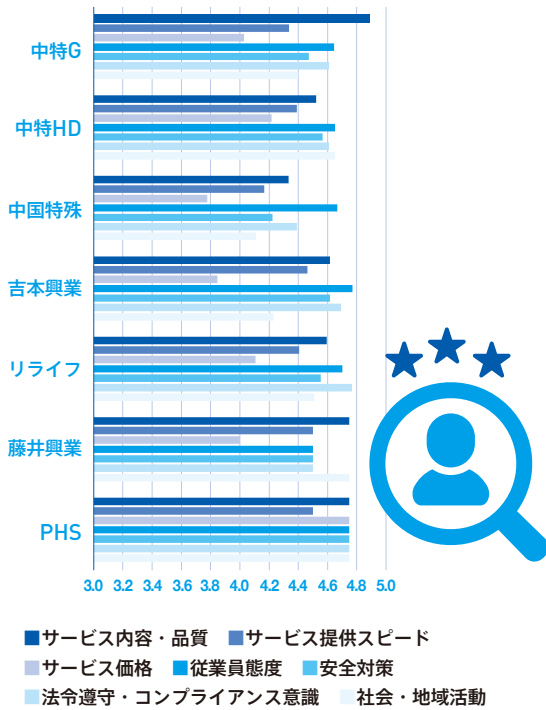
今後は健康経営の観点から各種取り組みを一層強化し、社員の働きやすさ・働きがいの向上、居心地の良い職場づくりを推進します。こうした取り組みを通じて、社員の定着率向上にもつなげてまいります。

ウェルビーイング

ワークエンゲージメントスコア
3.1点/6点 (昨年と変わらず同点)

※ワークエンゲージメントとは、仕事に関連するポジティブで充実した心理状態のことを指し、ワークエンゲージメントが高い人は、一般的に仕事に誇りややりがいを感じ、熱心に取り組み、仕事から活力を得て、いきいきと働いているとされています。





08



顧客満足度

2024年度に実施した顧客満足度アンケートでは、「サービス内容・品質」「サービス提供スピード」「サービス価格」「従業員態度」「安全対策」「法令遵守・コンプライアンス意識」「社会・地域貢献活動」の7項目について、5段階評価でご回答をいただきました。今年度も全体として高い評価をいただき、特に「従業員態度」(4.65)、「法令遵守・コンプライアンス意識」(4.61)、「サービス内容・品質」(4.51)など、当社の基本姿勢やサービス品質に対する信頼を引き続き頂いていることを、大変ありがたく受け止めております。

一方で、「サービス提供スピード」(4.34)と「サービス価格」(4.03)については、他項目と比べてやや低い評価となり、引き続き改善の余地があることが明らかになりました。また、「社会・地域貢献活動」は4.40と、昨年(4.65)よりやや評価が下がりました。この結果を真摯に受け止め、これまでの取り組みを振り返るとともに、地域とのつながりをより深める活動を強化してまいります。

今後も、お客様からのご意見を継続的な改善につなげ、「選ばれ続ける会社」であり続けるために、現場力の強化と地域社会への貢献を両立させた企業活動を推進してまいります。

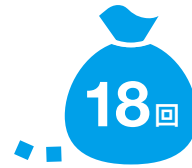
09



社会・地域貢献活動

地域社会とのつながりを大切にし、地域清掃や教育機関等との連携を通じて継続的に環境保全や地域社会への貢献に取り組んでいます。特に教育機関(小学校・中学校・高等学校・大学)との連携では、環境学習やキャリア教育など、多岐にわたるサポートを行いました。

また、2013年から続けている「いきいきサロン」への訪問も継続的に実施し、地域の皆様との交流を深めています。今後も地域社会の一員として、多様な取り組みを通じて、地域に根差した活動を続けてまいります。



地域清掃ボランティア



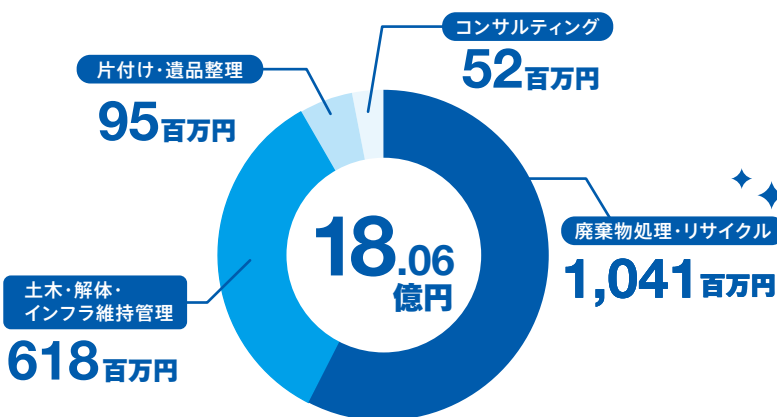
教育機関連携(小・中・高・大)



いきいきサロン・セミナー



環境出前授業



※グループ内売上を含む

10



年間売上

2024年度の売上高は前年比12.6%増の18.06億円となりました。廃棄物処理や土木・解体・インフラ維持管理部門の需要の高まりと共に売上が拡大しました。

2025年度は「選択と集中」というスローガンのもと、3～5年の中期事業計画の策定を行いながらさらなる事業の成長(地域やお客様のお困りごと解決)に取り組んで参ります。

100年へ。 ずっと美しい、この地球で生きていく。

01 CO2削減の取組み

日本の掲げる2050年カーボンニュートラル宣言、2030年までの削減目標に沿って、中特グループもCO2削減を推進しています。2024年度CO2発生量は793t-CO2/年と、前年度比1.7%の増加となりました。これは売上高の増加に伴い、ガソリン、軽油といった燃料使用量が増加したことが影響しています。今後も具体的な削減に取り組んでまいります。尚、算出はSCOPE1・2の集計となります。

二酸化炭素排出量 (2024年度)

■排出量換算係数

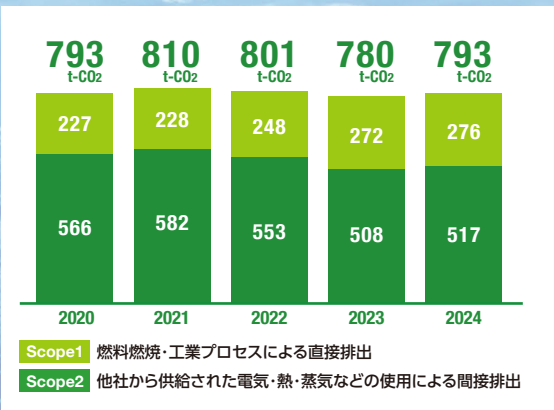
種類	単位	係数	換算単位
電気	kWh	0.636	Kg
LPG	m ³	0.818	
水道	m ³	0.580	
一般廃棄物	kg	0.840	
灯油	リットル	2.490	
A重油	リットル	2.710	
原油	リットル	2.619	
ガソリン	リットル	2.322	
軽油	リットル	2.619	

出典：環境省温室効果ガス排出係数について

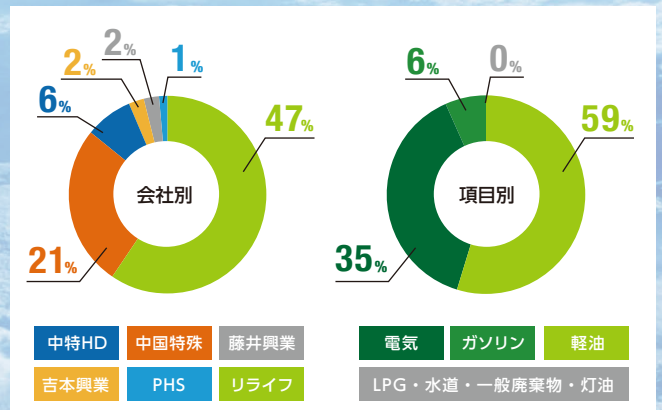
■会社別・項目別排出量

社名	電気		LPG		水道		一般廃棄物		灯油		ガソリン		軽油		換算排出量計
	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	使用量	換算排出量	
中特HD	53,939.00	34,305.20	0.00	0.00	351.00	203.58	380.72	319.80	0.00	0.00	4,943.67	11,479.20	0.00	0.00	46,307.79
中国特殊	56,437.00	35,893.93	16.40	13.42	645.00	374.10	80.80	67.87	0.00	0.00	8,958.72	20,802.15	41,214.47	107,940.70	165,092.16
藤井興業	6,265.00	3,984.54	2.10	1.72	68.00	39.44	0.00	0.00	53.00	131.97	1,501.42	3,486.30	4,875.30	12,768.41	20,412.38
吉本興業	27,657.00	17,589.85	8.50	6.95	948.00	549.84	0.00	0.00	0.00	0.00	2,454.11	5,698.44	59,450.64	155,701.23	179,546.31
PHS	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2,781.52	6,458.69	0.00	0.00	6,458.69
リライフ	284,798.00	181,131.53	3.90	3.19	1,444.00	837.52	573.60	481.82	126.00	313.74	1,204.45	2,796.73	72,422.19	189,673.72	375,238.25
計	429,096.00	272,905.06	30.90	25.28	3,456.00	2,004.48	1,035.12	869.50	179.00	445.71	21,843.89	50,721.51	177,962.60	466,084.05	793,055.58

■排出量推移 (単位：t-CO2/年)



■排出量内訳 (%)



02 ISO統合審査

中特グループでは“品質”“環境”“安全”の3規格について、ISOの認証を取得・継続しています。従来3規格個別に受審していた審査を今年度より統合することとし、6月3日から6日の4日間で更新審査を受審しました。

審査の結果、1件の「是正処置」と11件の軽微な「改善の機会」が挙げられましたが、マネジメントシステムは十分に有効との判定を受け、認証を継続することができました。「是正処置」、「改善の機会」ともに全社で共有し、マネジメントシステムの改善を図ってまいります。

是正処置の内容 不適合に対する是正処置の確認、有効性の評価が十分でない。(プロセス遵守)



2025年

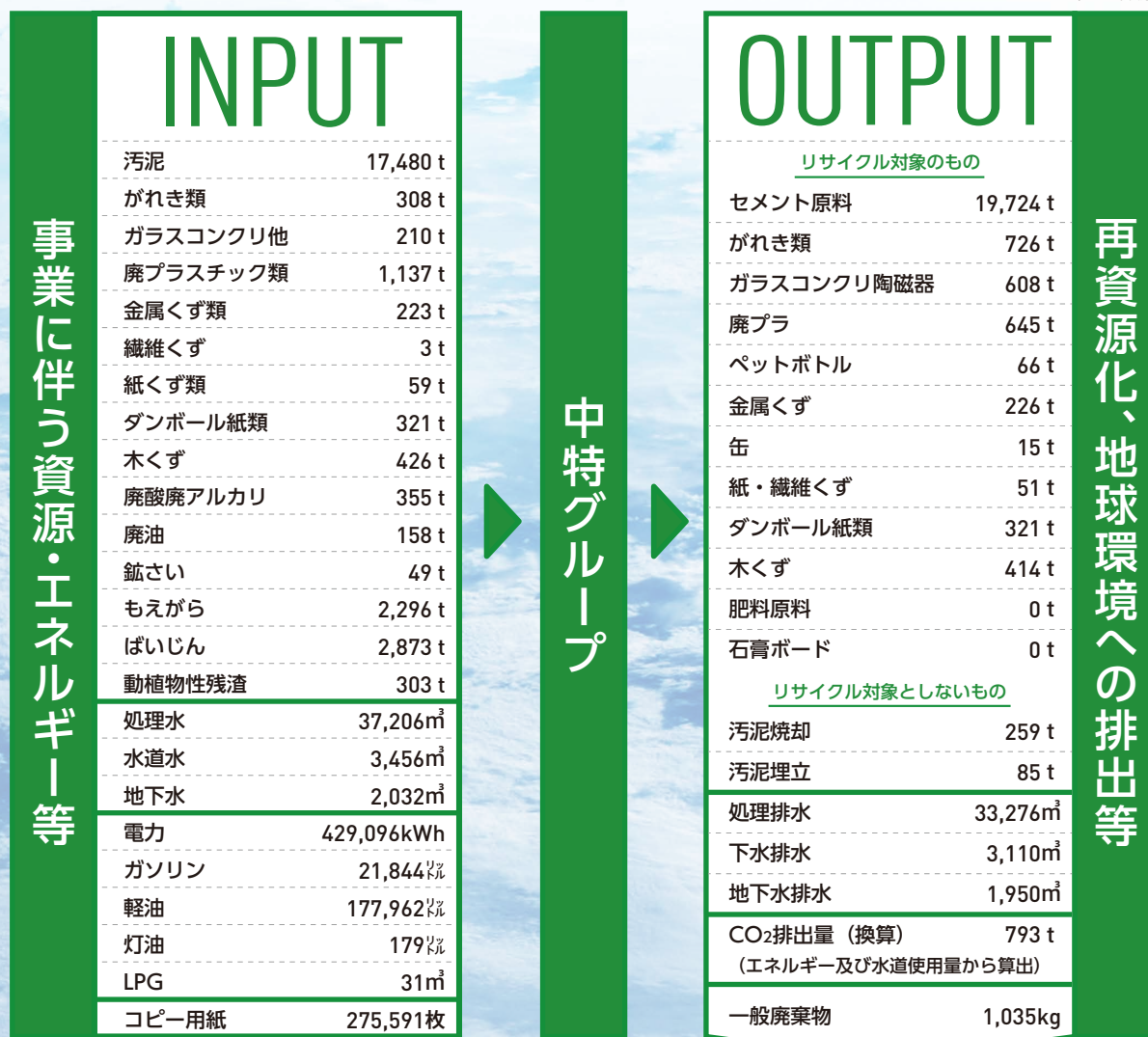
「中特グループは、地球上の全人類及び地域社会とともに持続可能な発展をするために、環境保全に努め、環境に優しい企業活動を行う。」という考えのもと、地域環境活動を推進しています。



03 マテリアルバランス

中特グループは地球上の全人類及び地域社会とともに「持続可能な未来」を創るために、社会環境課題解決に挑み続けます。

(2024年度分)



リサイクル率 **98.5%**

リサイクル率

リサイクル率は右記の式で算出しております。

$$\text{リサイクル率 (\%)} = \frac{\text{直接資源化量} + \text{処理後再生利用量}}{\text{廃棄物排出量}} \times 100$$

リサイクルするもの

金属、木材、紙、プラスチック、セメント原料、肥料原料等

リサイクルしないもの

埋立処分、燃料 (サーマルリサイクル) 等

100年へ。 もっとこのまちを楽しく、暮らしやすく。

01 教育機関との協働

昨年に引き続き、山口県内の小学校から大学までの教育活動を積極的に展開しています。2024年10月から2025年9月までの期間に各教育機関において合計19プログラムのサポートを実施。特に周南公立大学との連携では、3つのゼミに伴走し、ゼミ生のサポートやイベントの共同開催を行いました。その一例として、百武先生が指導する地域ゼミにてダチョウの卵を提供し、ダチョウの卵を活用したランプづくりワークショップを開催。学生と共に体験型学習の機会を創出しました。



02 お正月フェス

2025年1月12日(日)、(株)中特ホールディングスにて「お正月イベント」を開催しました。餅つきや豚汁販売、書初め、百人一首、射的、ごみの分別体験など、さまざまな企画を行い、保護者の方にも一緒にご参加いただくことで、小さなお子さまでも安心して楽しめるイベントとなりました。今回が初めての試みでしたが、達成感と高い満足度を得られる大変充実した催しとなりました。参加者の方からは、「ごみの分別の仕方が分かった」「餅つきや射的が楽しかった」「また参加したい」といった声を多くいただきました。地域の皆様楽しんでいただくと同時に、社員との交流も深まり、地域と会社をつなぐ温かい場となりました。



03 TOYOTA SOCIAL FES!!

2025年7月5日(土)、下松市のはなぐり海岸で開催された「TOYOTA SOCIAL FES!!」に、中特グループとして初めて参加しました。活動の前半では、私たちも参加者の一員として、海岸でのごみ拾いや稚魚の放流、清掃船デモンストレーションの見学など、普段では体験できない貴重なプログラムに参加しました。こうした活動を通じて、海洋環境の現状や地域で進められている保全の取り組みを、身近に感じることができました。後半は、中特グループとして環境ブースを担当し、「ゴミアートを作るう!」をテーマに講師を務めました。近隣の3校の高校にご参加いただき、生徒の皆さんを中心に、廃棄物を用いたアート作品づくりに取り組みました。具体的には、事前に各校ごとにキャンバスへ自由に絵を描いていただき、その上に海岸で回収した漂着物や廃棄物を貼り付け、私たち大人には思いつかないような発想で、独創的な作品が完成しました。普段のエコライフ活動では小学生を対象とすることが多いため、高校生と交流するこの機会は、講師としても非常に新鮮で、多くの学びがありました。生徒たちがごみを単なる廃棄物ではなく、表現の素材として捉え、創造力を発揮する姿から、環境教育の新たな可能性を感じることができました。今回の経験を糧に、今後も地域の若い世代とともに環境保全の大切さを共有する取り組みを続けていきたいと考えています。



地域の皆様に、私たちの事業活動やさまざまな取り組みにご理解をいただけたからこそ、歩むことのできた60年だと考えています。感謝の想いを胸に、これからも皆様にとってもっと楽しく暮らしやすい町になるよう、私たちにできることを進めてまいります。



04 環境出前授業

2025年2月20日(木)、小学4年生を対象にした「環境出前授業」を行いました。沼城小学校(約36名)の児童の皆さんへ向けて、社員3名がそれぞれ講師を務めました。最初に、ごみの分別の考え方について、3Rや食品ロス、※1ピリカ¹の取組みなどを紹介し、ごみの分別の大切さや循環型社会の実現、ポイ捨て防止の取り組みについて学習しました。その後の分別ゲームでは、学校の備品などを題材に「もし一般家庭からごみとして出された場合、どの分別品目に該当するか」を考える問題が出され、児童の皆さんは悩みながらも真剣に取り組んでいました。最後は、社員の指導のもと、ごみ収集車への積み込み体験を実施しました。普段触れることのない収集車の操作ボタンや、実際の内部の動きを間近で見ることができ、児童の皆さんは興味津々の様子でした。

※1 ピリカー株式会社特ホールディングスは株式会社ピリカと連携し、2023年10月から「車両(ごみ収集車)×スマホ×AIによる官民連携の地域美化システム「山口モデル」の構築」としてプロジェクトを実施しています。



05 いきいきサロンへの訪問

2013年9月から続けている「いきいきサロン」への訪問は、ついに150カ所を突破し、これまでに延べ3,700名を超える方々とふれあうことができました。2024年度は周南地区16カ所で開催し、426名の皆さまにご参加いただきました。ポータルハートサービスでは、「ごみの分別ゲーム」や「終活セミナー」を通じて、環境や暮らしを楽しく学べる時間を提供しています。近年は「終活について話を聞きたい」というご要望が増えており、年間約700件の対応実績のもと、現場での体験談を交えたリアルな内容が好評です。参加者からは「考え方が変わった」「帰ったらすぐ片付けたい!」といった前向きな声が多く寄せられています。これからも地域の皆さまと直接ふれあいながら、笑顔と気づきを届ける活動を続けてまいります。



06 環境問題を学ぶワークショップ

2024年度は※1エコライフチームが中心となり、海ごみ問題を学ぶ「海岸漂着物で作るクラフトアート体験」を2回行い、16名に参加いただきました。また、12月には県外初となる東京でも同プログラムを行いました。2025年8月7日(木)に開催された産業観光ツアーでは「ダチョウによる食品リサイクルループの仕組みと食品ロスについて」を行い、参加した親子20名がダチョウ給餌体験を楽しみました。

※1 エコライフチームとは・・・発想力と行動力のあるメンバーにて編成される、社内外に向けた「元気発信」を目的とするチームです。環境学習イベントや社内企画を推進しています。



07 地域清掃ボランティア活動

会社周辺の清掃や地域イベントでのクリーンアップ活動を継続的に実施しています。自社企画だけでなく、他団体が主催する活動にも積極的に参画し、地域の一員として環境美化に取り組んでいます。今後も地域社会に貢献できるよう、活動を続けてまいります。



お客様と
ともに

100年へ。 お客様に寄り添い、必要とされるように。

第18回

HappyHappy 勉強会

9月12日(金)

視聴後のアンケート (抜粋)

中国からの帰国者で、日本国内でご苦労なされた実態がよくわかりました。掃除する際に心を込めて仕事にあたることの重要性を実感しました。

世界での活躍も掲げている方のお話がリアルな熱量と共に伝わりました。

他者が汚したものをもとのようにきれいに戻すお仕事を担当されておられる方のお気持ちがわかりました。一昨年羽田空港で使わせていただいたトイレの綺麗さはご担当さんをはじめ皆様のご尽力の賜物だったことがわかりました。

新津さんの原体験も踏まえお話は大変勉強になりました。仕事とお掃除は重なる部分もあると思ひ、自身の仕事に対しての向き合い方に活かしていきたいと感じました。



2025年9月12日(金)15時よりホテルサンルート徳山にて、世界一清潔な羽田空港の環境マイスター 新津春子様を講師にお招きし、「ただの清掃も人生を変える」というテーマで第18回HappyHappy勉強会が開催されました。当日は、対面とYouTube配信によるハイブリッド形式で開催し、205名の方からお申し込みをいただき、70名が対面でご参加いただきました。

新津様は1970年に中国・瀋陽で生まれ、17歳で来日後、清掃の仕事を始められました。清掃の仕事を続ける中で、物を大切に扱うこと、そして「もしこの物が人間だったらどんな気持ちだろう」と思いやる“思う心”の大切さに気づかれたそうです。その考え方を実践し、27歳の時には全国ビルクリーニング技能競技会で最年少優勝という快挙を達成されました。

約1時間半という限られた時間の中で、数多くの興味深いエピソードをお話いただき、清掃にとどまらず、あらゆる仕事や日常に通じる「物を優しく扱う心」や「どんな状況でも前向きに続ける姿勢」を学ぶことができました。

講演終了後には、会場で販売されていた著書に直筆のサインをを求める参加者の長い列ができていました。

聴講後のアンケートには、多くの感想や温かいコメントが寄せられ、笑い声が響く和やかな雰囲気での講演会となりました。

「思う心が大切！」



見せる

信頼を生むリサイクル工場

リライフ 工場見学



当グループでは、産業廃棄物の中間処理を行うリサイクル工場をはじめ、各社の収集運搬施設や作業車両などの視察を積極的に受け入れています。

私たちは、廃棄物の処理過程を“見える化”することこそが、お客様に安心して廃棄物を搬出していただくための第一歩だと考えています。見学では、処理の流れや安全・環境への配慮、再資源化の仕組みなどを実際にご覧いただきながら、当グループの取り組みをわかりやすくご説明しています。こうした機会を通じて、お客様との信頼関係を深め、双方にとって最適な方法での廃棄物処理を共に考える場としています。

中特グループは、これからもお客様や地域に愛され必要とされ続ける企業を目指し、心から喜んでいただけるサービスをお届けできるよう努めてまいります。



お客様の声



株式会社 丸久
総務部
田中 靖士様

中特ホールディングス様が「生活環境革命で人々を幸せにする」を使命として掲げられ、天然資源の枯渇に対処するために「廃棄するのではなく、いかに再生させるか」を全力で追求しておられる姿勢に強く共感いたします。

弊社は食品・日用品を販売していますので、食品残渣や容器包装であるトレーやペットボトルなどが不要物となつて単純に可燃物として処理されること、不法投棄されて自然環境に悪影響を与えることは、販売する側からすると非常に残念なことであり、メーカー様も同じ気持ちだと思えます。食品等のパッケージを分別しリサイクルすることは、資源循環に繋がる環境にやさしい行動です。分別しなければ単純に焼却処分となつてしまい再利用されません。

世界人口は2030年には85億人、2050年には97億人になると予測されています。

す。今後、資源や食料が不足することは明白です。リサイクル活動にはコストがかかりますが、資源の有効活用と環境問題解決の気運を高め、リサイクルコストの削減を実現し、環境にやさしい循環型社会を構築していくことが肝要であると考えます。

そうしたなか、貴社は環境負荷を最小限にすべく回収された金属・木材・紙・プラスチックなどを再資源化されており、そのリサイクル率は98.5%という素晴らしい数値を達成しておられます。

また、グループ会社である吉本興業様には、アルク店舗の廃棄物を回収していただいております。そのうち青果部門から排出される野菜・果物は、貴社が飼育されているダチョウの飼料として活用していただいております。以前、ダチョウの卵をゴールド塗装した置物をいただき、弊社の受付に飾っていた時期がありました。鶏の卵と比較すると圧倒的に大きく、ゴールド色も相まってご来社される方の目を引いておりました。

話がさかのぼりますが、2018年5月13日、山口県立大学で「広げられ、こども食堂の輪」全国ツアーin山口が山口県などの後援で開催され、私も参加させていただきました。講演会や分科会に出席した際に、「7人にひとりの子どもが見えない貧困に苦しんでいます。

（相対的貧困）地域の生活水準と比較して、大多数よりも貧しい状態にある状態。」「給食がない夏休みなどは栄養不足でやせ細ってしまふ。」「ガス代が払えなくて冬でも水風呂に入っている（エネルギー貧困）。」「など先進国とは言えない現実を聞き、大きなショックを受けました。

1979年にノーベル平和賞を受賞し1997年に亡くなられたマザー・テレサ氏も、日本はもつと国内の貧困に目を向けるべきだと指摘されていたそうです。見えない貧困、分かりづらい貧困という点が深刻な問題です。

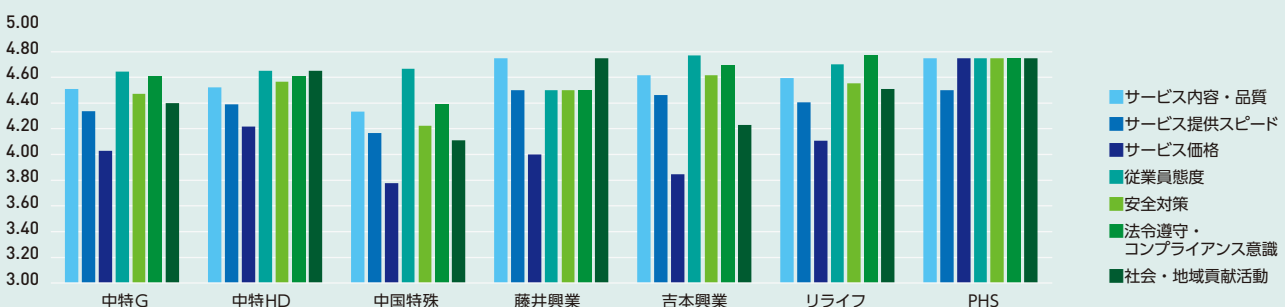
貴社はこのような状況にあるこどもの貧困解消の活動にも熱心に取り組まれており、フードバンク山口様と連携され、弊社の9店舗にフードバンクポストを設置されています。フードバンクポストとは、家庭で食べきれない食品や店舗で購入された食品を寄贈していただくポストで、食品ロスの削減と貧困問題の解決に向けた社会貢献活動のひとつであり、お客様の善意を繋ぐ手段となっております。この活動に弊社店舗が協力出来ていることを大変うれしく思っております。

最後に、貴社が社会を幸せにする静脈産業のオアソリティーとして更に進化され、社員の皆様とともに益々ご発展、ご活躍されることを祈念しております。

お客様の声

2025年1月に実施した顧客満足度アンケートには、139名のお客様よりご回答をいただきました。お忙しい中、貴重なご意見をお寄せいただきましたこと、心より御礼申し上げます。本アンケートでは、「サービス内容・品質」「サービス提供スピード」「サービス価格」「従業員態度」「安全対策」「法令順守・コンプライアンス意識」「社会・地域貢献活動」の7項目について、5段階評価でご意見を伺いました。全体的には高い評価を頂戴しましたが、その中でも「サービス提供スピード」(4.34)および「サービス価格」(4.03)については、全社共通の改善課題として浮き彫りとなりました。価格に関しては、私たちの提供するサービスの価値をより的確にお伝えするとともに、商品力・サービス力そのものの向上に努めてまいります。また、提供スピードに関しては、業務フローやプロセスの見直しを通じて、より迅速で柔軟な対応を実現すべく、継続的な改善を進めてまいります。

さらに、自由記述欄には多くの励ましとともに、今後への期待の声も数多く寄せられました。たとえば「業界の慣習にとらわれない新規事業への挑戦」や「処理が難しい廃棄物への対応」に加え、「大学や地域とのさらなる連携強化」や「若手・女性が活躍できる企業文化の継続」といった声もありました。これらのご意見は、私たちの取り組みに対する信頼のあらわれであり、今後も地域に根ざす企業として、お寄せいただいた声を真摯に受け止め、サービスの質向上と新たな価値の創出に努めてまいります。



100年へ。 働きがいと誇りを持てる職場に。

2025年度事業発展計画発表会

テーマ 「選択と集中」

2025年8月23日(土)に

2025年度事業発展計画発表会が
遠石会館にて開催されました。

会長 吉本英子より

今年創業60周年を迎えられたことに対し深い感慨を語り、会社が地域の皆様から愛される企業へと成長できたことを心から喜んでおり、「ここまで来られたのは、社員一人ひとりの努力と経営陣の支え、そしてお客様や地域の皆様のご理解とご協力のおかげです」と感謝の言葉を述べました。



CEO 橋本ふくみより

昨年度の総括と今後の方針について説明し、一昨年に策定した標準書をもとに各社で教育活動が進められたことや、新人事制度の運用が始まったことを報告しました。また、創業60周年記念イベントでは地域の皆様に喜んでいただけたことへの感謝も述べました。本年度のスローガンである「選択と集中」については、「限られた時間・人・資源の中で、何を選び、どこに力を注ぐかが重要であり、一人ひとりが主体性を持って改善に取り組むことが組織の成長につながる」と呼びかけるとともに、重点施策として「安全第一」「人材育成」「安定した市場・利益の獲得」の3点を掲げました。



懇親会

発表会の後には懇親会が開かれ、若手社員を中心としたエコライフチームが企画したゲームを通じて、社員同士の交流を深めました。

また、ポータルハートカード^{※1}を使った抽選会では、日頃の感謝の気持ちを送り合いながら盛り上がり、会社全体の一体感がさらに高まりました。発表会の後、懇親会が開催されました。

※1 社員相互で長所を発見し認め合う風土づくりの一環として社内にて活用しているカード

中特グループは、多様な社員が持つ可能性や意欲を引き出し、
 社会に貢献する人財を育成することを目指しています。
 全ての社員とその家族にいつも「幸せ」があるように取り組みます。



最優秀部門賞

(株)ポータル
 ハートサービス



永年勤続表彰

20年勤続 1名
 松村一人

個人表彰

今年度も各社で活躍した社員へ個人表彰をおこないました。
 懇親会にて賞状と金一封が授与されました。



部内のハッピーメーカー賞

(株)中特ホールディングス
 高尾 瑞七



縁の下の力持ちで賞

中国特殊(株)
 山本 成哉



日々進化しているで賞

(株)吉本興業
 迫田 富矢



成長著しいで賞

(株)リライフ
 占部 啓斗



社員研修旅行

入社して初めての社員研修旅行は、神戸・姫路をめぐる歴史と体験の旅でした。初日の姫路城では、天守までの階段を登りながら、仲間と語らう中で自然と会話が生まれ、絆が深まりました。天守閣からの景色にも圧倒され、歴史のスケールの大きさを実感しました。須磨シーワールドでも、普段見ない魚たちをみて同期と夢中になって写真を撮ったことを鮮明に覚えています。阪神淡路大震災記念館では、災害の記録と人々の復興への歩みから学ぶことが多く、自分の暮らしや働き方についても考えさせられました。中華街では賑やかな通りを散策しながら、同期と中華街でしか買えないものを買ったり、いろいろなものを食べたりしたことが印象に残っています。旅を通じて、歴史だけでなく「人」とのつながりの大切さを実感できた2日間でした。

2024年10月 神戸研修旅行
中国特殊(株) 京面 裕也



アカデミー・教育研修・スポーツ



全社員に学びの機会を提供することを目的に業務時間内に設けられた勉強会、中特アカデミーでは、例年通りハラスメント研修や廃棄物処理法、ISOなどについて学びました。特に改善提案に関する回では例題を元にグループで改善方法を話し合って発表し、実践的な学びになりました。

また、社員の交流の場として、2024年11月3日(日)に新南陽浄化センターグラウンドにて社内ソフトボール大会を開催しました。約20名の社員と家族が参加し、部署を超えて盛り上がりました。

社内コミュニケーションの充実



社員同士の交流を促進し、より良いサービスづくりにつなげるために、LINE WORKSの掲示板を活用し、社内コミュニケーションコンテンツの発信を行っています。特に人気が高いのは、新入社員の趣味や入社きっかけなどを紹介する「新入社員紹介」です。また、2023年10月から毎月発行している「持ち帰れる社内報」や、部署間・世代間の対談企画「部署リレー」「中特タイムトラベル企画」などが好評です。

社員インタビューの満足度

81.2%

中特タイムトラベル(社員対談)の満足度

75.7%

しごとのひとコマ(4コマ漫画記事)の満足度

78.7%

CHUTOKU TIMES(持ち帰れる社内報)の満足度

78.4%

親睦会

部署や役職、グループの垣根を越えた交流やコミュニケーションの促進、そしてリフレッシュによる仕事のモチベーション向上を目的として、当グループでは親睦会交流イベントを開催しています。毎年、バス旅行やお花見など、さまざまなイベントを企画しています。今年度の主な活動としては、2月にはボウリング大会、6月にはビアガーデンを開催しました。いずれのイベントも複数回、異なる曜日に実施することで多くの社員が参加し、笑顔と会話があふれる活気に満ちたひとときとなりました。

ボウリング大会

各ゲーム個人戦で1~3位
ブービー賞を表彰

参加者全員に
参加賞を呈進



日時：2025年2月15日(土) 19時、2025年2月21日(金) 19時
参加人数：2/15：25名(親睦会員14名)、2/21：20名(親睦会員19名)
開催の概要：ボウリング2ゲームを実施

ビアガーデン



日時：2025年6月28日(土) 19時~21時
参加人数：62名(親睦会員45名)
開催の概要：光駅前ホテル松原屋の屋上ビアガーデンに参加

各イベント開催を企画したきっかけは？
(どう決めた?)

2年間の任期の中で「どんな催しなら社員のみんなが楽しめるか?」をアンケート結果から検討したことがきっかけです。寄せられた声を踏まえ、お花見・ビアガーデン・バス旅行の開催を決めました。そして誰でも参加しやすいよう土日どちらでも実施できるボウリング大会を組み込みました。また、会社全体のイベント開催時期も考慮しました。

(例:2024年4月 BBQ、2024年6月、広島バス旅行)

準備や当日運営で大変だったことは?

お菓子などの景品の準備が大変でしたが協力しながら進めました。各社の親睦会の担当社員で協力しながら進めたため、あまり負担なくスムーズに運営することができたと思います。

企画者向けインタビュー



尾崎さん

一番印象に残った瞬間は?

金曜午後での開催は初の試みだったのですが、普段なかなか参加されていなかった社員の参加があったことが嬉しかったです。お子さんやご家族にも参加していただき、社員だけでなく社員のご家族も共に楽しんでいただけて良かったです。コロナ以降なかなか多くの人が集まるイベントができなかったこともあり、このように多くの人に参加していただけて、より嬉しいです。(2024年4月BBQ、2024年6月広島バス旅行)

今後親睦会でしていきたいことがあるとすると?

イベントだけでなく、慶弔関係の制度についても親睦会の担当でするので、何か良いアイデアがあれば活用していきたいです。

イベント後、社内に変化はありましたか?

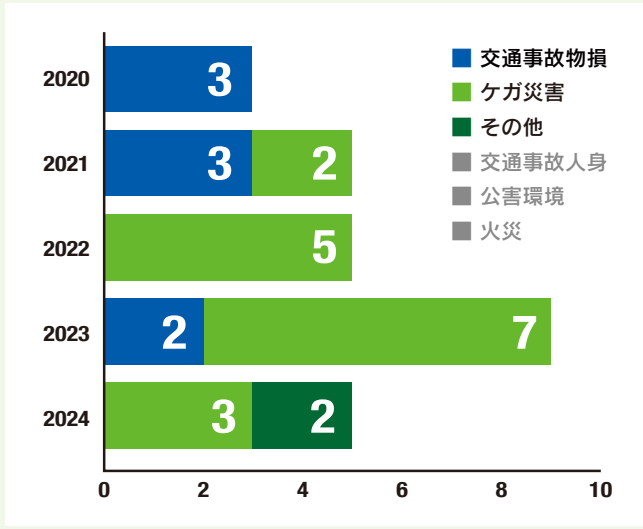
親睦会で仲を深めたことをきっかけにしてグループの垣根を越えてプライベートでも社員交流があったと耳にしました。

事故災害 ゼロを めざして

100年へ。 安全衛生・防災はすべてに優先する。

事故災害発生状況

2024年度は5件の不休災害・交通物損事故が発生しました。休業災害の発生はありません。5件中3件が解体作業、重機作業に関連するものであり、危険度が高まっています。

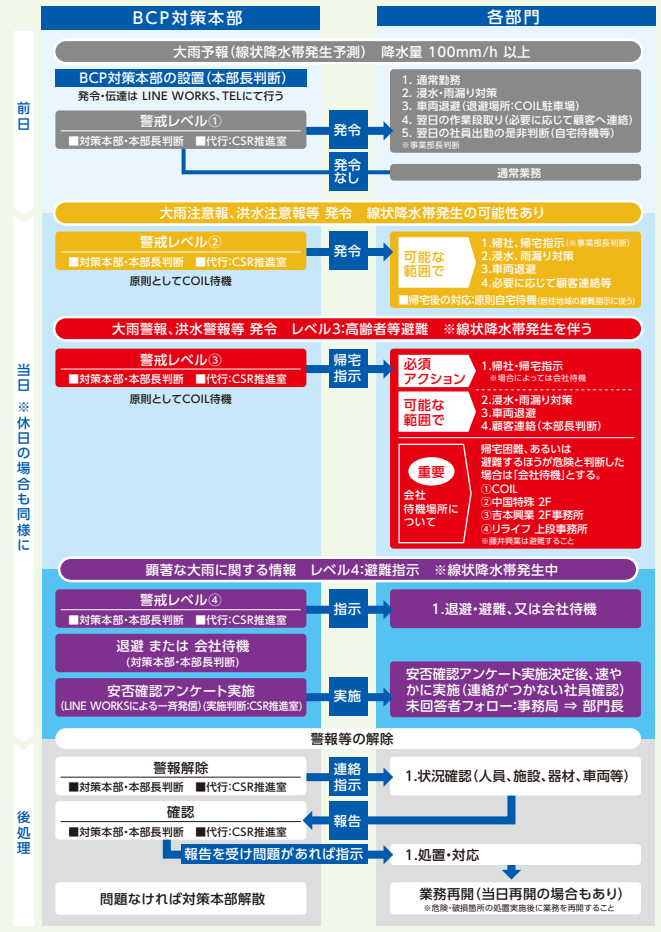


内容	原因
1 吸引車による吸引作業開始時にバキュームホースの筒先に親指がかかったままであった為、左腕が吸引された。左腕のうっ血、打撲。	・作業者の癖(指導不足) ・作業体制の不備(適切な人員配置、トラブル時の措置等) ・共同作業者の対応・指示の不備
2 バックホーを使用しているフレコン荷降ろし作業中、フレコンを吊って旋回した際、荷が振れてバックホーのフロントガラス下部と接触。フロントガラス破損。	・オペレーターの技量・経験不足(重機ポジション、地切り、振れ止め等) ・作業指揮の不備
3 解体作業にて、2Fから1Fに床板を渡す際に手を滑らせて板が落下、落ちたはずみで1F作業員にのしかかる形となりうつ伏せで転倒。頭部打撲。	・雨が降っていたことにより、手を滑らせた。 ・上下作業(作業方法が不適切) ・お互いの声掛けができていなかった。
4 固形産廃の選別作業中、選別後にコンテナに入れた金属棒がはみ出していることに気付かず、顎下に接触。挫創による通院治療。	次の作業に気を取られていた。(注意力散漫)
5 解体工事現場での車両通行用の敷板敷設作業中、鋼板を吊り上げた際のマグネットが外れ、ユニックに落下。荷台、フレーム損傷。	・マグネットが外れた原因は不明(接着面の汚れ、錆、湿気等による吊上げ能力低下?)

BCP (事業継続力強化計画)

2021年12月に中特グループ全6社で認定を受けた経済産業省中小企業庁「連携事業継続力強化計画」をベースに2024年度も具体的な活動と見直しを実施しました。主な活動として、①非常用備蓄品の配布訓練の実施、②安否確認手順の見直し、③集中豪雨(線状降水帯発生時)の対応手順作成等を行いました。今後も防災・減災に向けて取り組んでまいります。

集中豪雨(線状降水帯)発生時の対応フロー



非常用備蓄品の保管

地震(津波)、台風、集中豪雨等の自然災害に備えて、100人がいざという場合に3日間過ごすことができる食料品、飲料等を備蓄しています。拠点分散した備蓄品の配布訓練や防災持出用バックの準備等を行い、万一の事態に備えています。



「安全衛生・防災はすべてに優先する」考えのもと、
事故災害“ゼロ”を目指してグループを挙げて、
各管理者・安全衛生委員を中心として安全衛生防災活動に取り組んでいます。



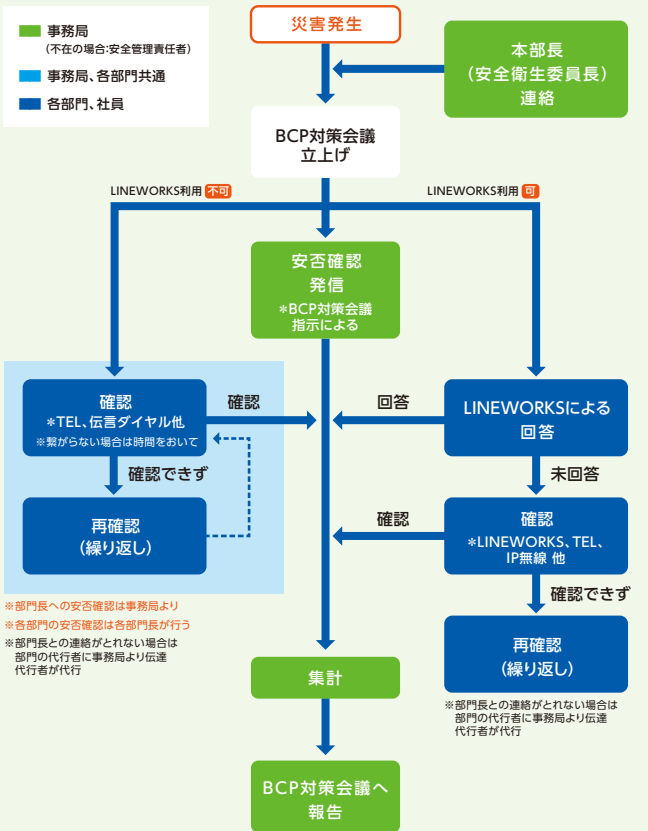
安否確認訓練

全社員がスマートフォンを活用し、LINE WORKSのアンケート機能を利用した安否確認訓練を継続して実施しています。3ヶ月に1回の頻度で訓練を行うほか、実際の地震・台風・豪雨などの災害が発生した場合にも活用しています。

従来の電話やメールを利用したものと異なり、グループ全員の状況をリアルタイムで共有でき、短時間で確認が完了する点が大きなメリットです。運用手順の見直しも随時実施しており、直近では未回答者への再確認方法や部門長不在の場合の連絡体制などについて改善を行いました。

今後も内容を精査しながら継続し、実態により則した形で万一の事態に備えます。

地震(津波)等発生時の安否確認フロー



熱中症対策

近年、夏場の気温上昇に伴い、熱中症のリスクが高まっています。中特グループにおいても重点課題のひとつとして、従前より「飲料水や

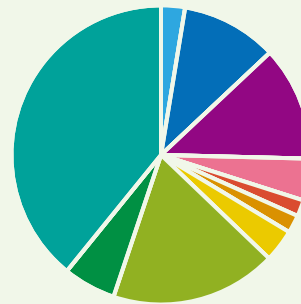
塩分」「各種冷却剤の配布」「連続作業に対する休憩時間の確保」「朝礼や終礼時の生活習慣(睡眠、食事、暑熱順化等)に関する声掛け」等様々な対策や社員への注意喚起を実施しています。今夏は各部門に冷凍庫を設置し、屋外での作業を終えた社員が身体の内から冷まることができるよう“アイスクリーム”を常備しました。好評です。



ヒヤリハット摘出と対策活動

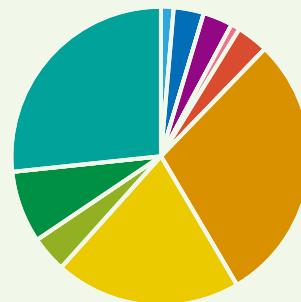
全ヒヤリハットの摘出と対策に継続して取り組んでいます。2024年度グループ合計で1,554件のヒヤリハット事例を報告・共有し、内容の分析と再発防止策の検討・実施を行いました。「ヒヤリハットの段階で対処し事故・災害を未然に防止する」ことを目的に、日々の業務の中で“ヒヤリ”と感じる感性を養うべく活動しています。内容は次の通りです。

事故災害の型別分類



- 44 墜落・転落
- 177 転倒
- 211 激突
- 77 飛来落下
- 30 挟まれ・巻き込まれ
- 33 切れこすれ
- 60 有害物質の接触
- 306 交通事故(他者原因)
- 97 交通事故(自己原因)
- 666 その他

管理・設備上の要因



- 23 手順書の不備、習得不足
- 55 設備上の不備
- 54 作業段取りの不備
- 16 指示命令の不備
- 58 保護具・工具等の不備
- 493 不安安全行為・状態(他者)
- 339 不安安全行為・状態(自分)
- 66 作業教育訓練不足
- 131 天気・日照・気候等
- 449 その他

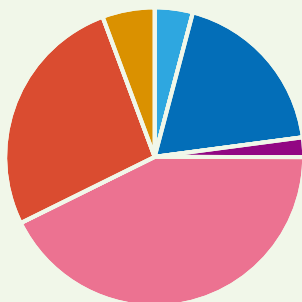
事故災害 ゼロを めざして

人的状況及び環境要因



- 107 よく見えなかった
- 246 気づかなかった
- 122 見落とした
- 316 安易に考えた
- 70 急に気づかなかった
- 292 あわてた
- 90 体のバランスを崩した
- 21 手順を無視した
- 52 疲れていた
- 435 その他

部門別提出状況



- 64 中特HD
- 292 中国特殊
- 33 藤井興業
- 663 吉本興業
- 414 PHS
- 88 リラief

リスクアセスメント活動

事故・災害を撲滅する為の手段のひとつとして、リスクアセスメント活動を継続して取り組んでいます。

グループ各社毎の作業における危険源に対してリスクを見直し、①更なるリスク低減の手段・方法はないか?②新たな危険源はないか?をメンバーで検討し、安全レベルの向上を図ります。

参加者はリスクアセスメント講習修了者並びに管理者を中心に、社員全員参加としています。同時に2023年度からは、各社・各部門から選出された化学物質管理者を中心に、化学物質取扱いに関するリスクアセスメントにも取り組んでいます。



JBK(事故撲滅研修) & なぜなぜ分析

中特グループの現業部門では月1回以上“JBK(事故撲滅研修)”を実施しています。

自部門で起こった事故のみならず他社・他部門で起こった事故を題材にケーススタディや認識度テストなどを行うことで、意識を高め、社員全員で文字通り“事故撲滅”を目指します。

尚、それらの研修の中でも活用されているのが“なぜなぜ分析”です。発生事象をもとに一次要因から三次要因(真因)を掘り下げることによって、有効な対策を導き出すことができるこの手法を使い、類似の事故・災害の防止に繋げることができます。中特グループでは、事故・災害や重大なヒヤリハットが発生した場合に速やかに“なぜなぜ分析”を行います。



安全相互パトロール & 産業医職場巡視

■安全相互パトロール

現業部門に対し、1回/月の安全相互パトロールを実施しています。環境安全衛生委員会の委員を中心に、多数の社員が参加することで、当該部門が気付いていない問題点、作業に潜む危険リスクやGoodポイント等を気付きとして共有しています。



産業医職場巡視

毎月1回開催される“環境安全衛生委員会”に併せて、産業医による職場巡視を実施しています。照度・換気・作業環境・粉塵など専門家の視点で指摘いただき、改善を図っています。



各種訓練

消防訓練

(株)中特ホールディングス本社(COIL)は不特定多数の方が利用されるため、「特定防火対象物」となっており、防火管理者の選任と消防訓練の実施が義務付けられています。

これに伴い、6月13日(金)に消防訓練を実施し、水消火器の操作訓練や排煙設備の操作方法および消防署をはじめとする関係各所への連絡方法の確認等を行いました。

今後も社員以外の方の誘導訓練等、様々な事態を想定した訓練を実施してまいります。



緊急事態想定訓練

中特グループでは各社共通又は特定作業における17の緊急事態を想定し、1回/年以上の緊急事態想定訓練を実施しています。



緊急事態特定一覧

- | | |
|---------------------|------------------|
| ■ 酸素欠乏・硫化水素中毒 | ■ 地震(津波)、豪雨災害発生 |
| ■ 有機溶剤中毒 | ■ 熱中症 |
| ■ 苛性ソーダ保管、使用時の漏れ | ■ 自家スタンド軽油受入時の漏洩 |
| ■ 硫酸・苛性ソーダ保管、使用時の漏れ | ■ 自家スタンド給油時の漏洩 |
| ■ パッカー車両火災 | ■ 廃棄物の飛散、漏洩 |
| ■ 希塩酸保管、使用時の漏れ | ■ 重機のホース破損、作動油洩れ |
| ■ 改質施設での転落、巻き込まれ | ■ 排水異常 |
| ■ 中特HD本社社屋火災 | ■ 保管汚泥の敷地外への流出 |
| | ■ 汚泥(汚水)流出 |

技術・技能向上訓練

業務遂行における技術・技能向上および部門間の連携維持のための訓練を適宜実施しています。2025年6月には、中国特殊(株)構内に下水管維持管理用訓練施設を設置しました。



車両誘導訓練

中特グループでは多種多様な車両を80台以上保有し、多岐に亘る業務を日々行っています。街中や狭路部での運転も多いことから、使用する車両の特性を把握し、作業現場での事故を防止する為、定期的に車両誘導訓練を実施しています。

訓練では、誘導員が見るべきポイント、誘導員の立ち位置、声の大きさ等、細かな部分まで確認し、参加者全員で共有します。



災害発生時の避難訓練

昨今の地球規模での大規模な地震(津波)の発生や気候変動による局所的な豪雨での浸水や冠水に備え、中特グループでは様々な避難訓練のマニュアルを作成し、グループ各社毎に避難訓練を実施しています。

今年度は「100mm/hを超える集中豪雨(線状降水帯)発生時」の対応フローを作成し、災害発生時のレベル命令、役割分担等の動きを明確にしました。

1回/年の避難訓練により、①身を守る行動、②災害発生時の指定場所への避難行動、③安否確認、④災害後の早期復旧に向けた車両退避等の動きを確認しました。訓練を繰り返すことにより、いざという時に速やかに“生命を守る行動”がとれるようにするため、今後も継続してまいります。



第三者意見



周南労働衛生
コンサルタント事務所
医学博士
労働衛生コンサルタント(保健衛生)
代表 山本真二

私は、2021年2月より中特グループの嘱託産業医(以後産業医)を務めております。産業医とは事業所で働く従業員の健康の保持増進と快適な職場環境の形成を目的に活動している産業保健の専門家(医師)です。月1回事業所を訪問し、職場巡視、安全衛生委員会への出席、従業員の健康診断結果をチェックし就業上の措置の記載、高ストレス者からの申出による面接、健康に関する相談などを行っています。今回は産業保健の専門家の立場として意見を述べます。なお、この原稿依頼を受けて、改めてCSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)について学習しました。厚生労働省の資料では「企業活動において、社会的公正や環境などへの配慮を組み込み、従業員、投資家、地域社会などの利害関係者に対して責任ある行動をとるとともに、説明責任を果たしていくことを求める考え方にあります。産業保健は事業所で働く従業員の健康の保持増進に加え快適な職場環境(長時間労働が無く、いきいきと働くことができる)を目指しています。広義ではCSR活動の中に産業保健が位置づけられていると言っても良いかもしれません。

中特グループが年1回発行している「Think of Next」と表題した30ページに及びCSR報告書を拝見して、まず中特グループのCSR活動への熱意が感じられます。次にCSR報告書(Vol.122024)の内容です。巻頭は新しくなったロゴマークに始まり企業理念や各社スローガン、7つの中核課題が目次とともにすっきり配置されており、全体像が掴みやすいと感じます。特集(座談会、トピックスに次いでNEXT10 Targets)では私の専門である産業保健に関するテーマ(具体的に働き方、健康増進活動の推進、社員幸福度など)が取り上げられています。中でも社員幸福度の中で仕事満足度は70%の人が満足、まあ満足と回答しています。逆に30%の人はやや不満足・不満足と回答しています。快適な職場環境の形成といった視点からはまだまだ改善の余地がありそうです。環境、地域社会、ステークホルダー、社員に関する内容も豊富であり、よく出来たCSR報告書だと思います。

それではこれから私の提言を申し上げます。冒頭に産業保健の目的を書きましたが、その趣旨に沿った内容が新たに加わることを期待します。具体的には①健康の保持増進に関して、例えば健康診断の結果を集計して従業員の健康度の見える化、②ストレスチェック結果および集団分析結果の見える化などです。従業員の心身の健康が企業経営のベースであることから現在の中特グループの心身の健康度の見える化によって、一人一人が自分の健康度に向き合い自発的に健康度を上げる取組や行動を起こすことが期待できます。また、近年は長時間労働による脳・心臓疾患を発症する労働者に加え、パワーハラスメント等による精神疾患の発症者が増加しています。精神障害として労災認定された事案で、もっとも多かったのは「上司等から、身体的攻撃、精神的攻撃等のパワーハラスメントを受けた」でした。加えて「顧客や取引先、施設利用者等から著しい迷惑行為を受けた」いわゆるカスタマーハラスメントも増加しています。このように従業員を取巻く環境の変化に対して毎年内容の異なるハラスメント研修、相談しやすい相談窓口の設置やストレスチェックによるストレスへの気づきを促すことなどがとても大切です。最後に健康経営認定企業として、一人一人が健康意識をさらに高め、仲間を大切に、いきいきと働ける職場を目指して今後とも成長し続けることを期待します。

第三者意見を受けて

ご多忙にも拘わらず、ご意見を賜りましてありがとうございます。
山本先生には、安全衛生委員会や職場巡視を通じて、グループ全体の快適な職場環境づくりに欠かせない「正しい知識と情報」をご教示いただき、深く感謝申し上げます。
ご指摘いただきました心身の健康度の見える化につきましては、ご指導のもと鋭意取り組んでまいります。
これにより、社員一人ひとりがいきいきと働ける職場の実現を目指してまいります。
今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

公正な事業と組織運営のために

経営執行組織図





まちと未来をキレイにする仕事。

Chutoku Group

株式会社 中特ホールディングス

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3034-1
TEL:0834-25-0606 (代表) FAX:0834-25-0607

中国特殊株式会社

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-26-0500 FAX:0834-25-2856

株式会社 吉本興業

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3044-2
TEL:0834-25-0423 FAX:0834-25-2939

株式会社 リライフ

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-33-8685 FAX:0834-25-2856

[下松リサイクル工場]

〒744-0002 山口県下松市東海岸通り18-1
TEL:0833-44-0007 FAX:0833-44-1007

株式会社 藤井興業

〒746-0017 山口県周南市宮の前2-2-12
TEL:0834-63-1294 FAX:0834-25-2856

株式会社 ポータルハートサービス

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-33-8100 FAX:0834-25-2939

[宇部営業所]

〒755-0045 山口県宇部市則貞2-11-1-208



アンケートは
こちらから

